

べり正貨を五千兩と假定するも昔々年の  
流出額壹億五千万圓に止れり假に計算し  
三億圓とするも尙差額壹億より若し上  
の余額を示せりなり而して右差額壹億圓  
の場合によりては現給して我費に費用す  
るも可なり或は明年に繰越して正貨の補填  
も供するも可なり何れにせよ今年の如き  
巨額の外債成立は我戰時財政に一大効果を  
與へたる大補なしといへり

國權法律論の如き暫く涙目せしむるも已り  
と得ざる所であらうと思ふ(某將校の談)

「第一義」 日露戦争 對する米國各  
新聞の批評若くは歌詠は皆ち得て趣上な物  
である。其五六を下に掲げて見やう。A.ガ  
ラス・タイムズ曰く、ロバートは查歩  
も、泥のねと置つた、左衛門彼れは查歩と  
退く方でない、查敵に高飛びする方の男、

鹽業に就て、未だ殆んど専門家の調査したるものも、其大要を述べれば左に如し。韓國に於て消費する鹽は大部分國內に産し、一部分外國輸入品に係り、輸入外國鹽は日本産と清國産の兩種なり。今我國統計に依り過去二ヶ年間に於ける輸入量を示せば左の如し。

如し今之が政見の題目を列挙すれば大體左  
の數點に據るものと認む

一、現下の韓土は約三分の一が敵艦と混和する處也

理由　華正の往々如何は採鐵の多少及勞金に非常の關係をもつものなり現在使金の吸收無常鐵土質にして海水の吸收又熱帯氣候と邊境よりして日暮五日乃至十日毎週遊牧者に非ざれば採鐵を爲す能はずして其期滿理國に要する勢力亦尠からず若し之は繼續故を憐れんや夫を退いて航軍が隨戰陣地を張るの利とする云

後述となるべく軍事上にて此狀勢を察し、船隻度々の魚網に被罩せんと統制適合するので意図に出れば此形勢は直に我軍實力の大躍進に導くべし略解義は赤城の狀態の下に我軍の進攻も亦た防衛線前前に於ける艦隊の雄兵かゝる地方退却の地域に感ふ其存立を失ふべし蓋し是れ早く拉林河畔に進いて航軍が隨戰陣地を張るの利とする云

二、撤土の分量を減じて三分一と牙砕るゝ理由。現在に於ける撤土の分量を拉するに（平積り約約一石（厚敷寸））にして内地の傾地端と堅固に保持して特に出るに益然の壁にせんとしつゝあると同時に一

勝今や奉天附近の大戦に於ては歴史上無前  
 の大勝を博し盛國滿洲州の主力を殲滅し殆  
 んど鐵嶺を略し興露を陥入る昌圖を取り州  
 邑を鐵嶺の勢に以て北進しつゝある其戰線  
 各支隊に立小學は失火の險此等南朝に關せ  
 ぬに鐵嶺の勢に以て北進しつゝある其戰線  
 各支隊に立小學は失火の險此等南朝に關せ

なく韓國海軍と反對なるにあらべしと雖も其差餘も大に失するの如し若し如上の改良をなさんと就機熱心士族の運籌を怠るべしと云ふ事あり

其交情を温め我が作戦を助け其行動を研究  
活ならしめぬが如く往々に名を調査せし  
を托して今尙は躊躇しあるも甚だ解し  
の懐き大意である是れ畢竟我が邦人の一擧が  
たるは其成否は未だ知らざる者なり因て貴  
子介の雄辯を讀みたるは世新に明かにして生  
き偉人傳亦た其一たり

●露國大勳の企圖  
●唯彼の標的として、皇室の有力者及び頑硬なる守護地を指しつゝあるは怪しむに足らざるでもない。ト、  
●シベリアに於ては、  
●其の北進に對する監視兵の用を盡かに過ぎず、  
●斯の如き微細なる敵兵を擧進すに、  
●其主方の防禦陣地に迫るは必ずしも

蕪州人民に加へたり或は無賴の徒が種々  
 の惡事を働くたゝありては殆んど其利害相  
 半はすの所なり政府は之を斷行するの勇氣  
 がないのかも知れない、現に廿七八年の日  
 王の薨に於ては殆んど現王弘中及び川郷に  
 没精竭慮せられし王起劉所にて御分州ある  
 王子御誕生ありしも北朝の推戴を蒙へ信員

目的物に擬せんとするは、一貫其意なるが如きも是れ最も強硬漢と稱せらるゝ徴とす。さうものと違つて用意の強硬仕へざるを以て、さうとす。

時を危難で招くのみならずその外に敵は我軍も亦其勢力をみだすとその身も其時時に危難で招くのみならずその外に敵は我軍も亦其勢力をみだすとその身も

浦羅大福の敵兵も亦相應の勢力を有す

るに於ては、吾國は宜しく戰時戰地に渡行する  
内海人民を取捕るには陸軍戦隊に於て之  
を適用するを以て最も宜しきを得たるもの  
に、守護士は追捕せられ、船客某氏は敵手

●**清帝の勅告** 獨逸皇帝は驚  
由にきるに至らば必其眞實を疑ふべしと  
云ふ

●**時政の丑聞** 外債金欲償還  
還る難しと稱すに非ざるを疑ふべしと  
云ふ

を振舞ふる爲めに一兵士の兵隊に入つて一戰功  
を立たるを濟するに統戦を以てして一戰功  
を立たるを濟するに統戦を以てして一戰功  
を立たるを濟するに統戦を以てして一戰功

處に居すべしと斷言に警告したるに發帝は時に仰へる君正實の陳明は一ヶ年一度國難を之を斥責せり而して備はるは皮肉御意外に過すす本に斯實實の關係より流出

内にもこれを適用して無軌道な安樂の基礎を築き、大王の王位を奪取するに努めた。大王の十位の子孫に因にするの機断本から可からず區々たる人なり。

曾亮齊望命似絲。桃林春暖夕陽遲。太  
平何料殺無罪。慙毒多於焚尾時。

の珍味田野の野菜 太「サッーい、今日はお費  
面の御盃を頂戴いたしとうござい候す先づ  
と盃を取て重太郎にさす重太郎より盃をう  
とすへつ、さういふと、さういふと、さういふと、

●春窓雜詠 炭村 峯子  
 心をきればサト飛びぬるす白鳩の羽風に  
 工神の花散る

一度は嘔き其の惡才に身ぢふゝわして驚く  
く話しに身が入りまして十分は酩酊をして  
其夜は臥りました偖て何うもつゝ女の痼氣

の土龍うらやむ

毒にもつぎ女は去つて再たひ歸らぬ冥途黄泉の旅へ赴ひましたかたの如く葬式をいとなみ此の儀を上野之介政景の元へ届け

うらゝかや東風孕きたる十反帆 白  
うらゝかや鐵道隊の鉄初め 沐  
うらゝかや土堤に陽炎ふ晒し布 芳

金子一百兩を夫へ取いだしまして「之情  
岩見氏主人より香料として些夕ながら佛前  
へ備へます重太郎大さに驚ろく「重一大大に

うららかな傘影衣香市の春薫

講談

仇武勇の誓

すにはつぎ女は父の仇を討んどて兄と共に  
國表を出立なし艱難辛苦に及んだるは又な  
き処の孝女なりよまながら宇都の宮の巴里

仇討  
**武勇の譽**  
（廿一回）  
元井竹林講  
本社社員速記

さ處の學女なりよりながら宇都の宮の巴尾  
へ身を沈め然して重太郎と共に出奔いたし  
たれば罪人である定めし泉下<sup>いみじ</sup>に於て此めと

申しもの御身は若松屋太平わかまつやたいへいの力兄ちからあに重忠しげただ  
 つぎ須海蒼海にくらべがたき御身より大  
 を受たることはつきの物語りに依てよく  
 知りました猶又それがし入牢にやうらうわざ／＼下

いまず速やかに御受納ならべきかと心得ます  
重す何にから御まで御行届きあるばなれ  
御慈悲上かき御取計らひ重太郎は必根に御

以下におかれる段何と御禮の申さうや  
とさいますせん就ては重太郎御身に合せ  
面ない段の巴里の一條實に読む吾輩  
さるん如何なきと立腹なれど頭本無

もしく茲に日を送るべき身分でない太川成瀬  
廣瀬が狙ひ玉ふ大切な鹿の御身分早く  
御出立あもせられてよろしからう政景の命  
でございませう又奥州希は貴方次第でござ

太早と申すも下野板橋の町に居まする殿  
らぬものでございます重藏様御孫御の御  
方と對し何の御世話もいたした是へは

家とさして御殿がよろしゆふごさいす夫  
 二のち次第今はん島渡拜願をせたいこのこ  
 三と何と御間道下さいせんか 重一委調承知

御國事といひぬまがら飯糰にも姫女雇へ

對面の鐵梯が終りました。







と願ながらに午しも門を出でんとする夫と  
本太夫の帯を引止めて、因縁亂に呼び止

はウイキに取付て、打死する事を出  
奉なわつた。之れで悪い幾十事は無い。明  
日は貴族の打死せざる事を決めた。  
假令れば角面頭の女を殺さるゝ時、  
我々に何人かして遂に退却したる  
も其の中一人者があつて、前橋六太郎  
と名づける者だ。惜しくも、  
其の敵兵の位牌に手向け只貴六郎の生  
長を樂しみに觀賞して居ることである。

[illegible]

眞氣な手指を以て觸れても肉離くして  
 け居たり。斯く然るの疾ひは初動と云地の如  
 し。よりて超然たる疾ふ人とは、於素  
 出なれども、一を放せし急は眼も聞か  
 ず。明ならず。も、高に驚しニテ、其はく、  
 て手指を觸れるは肉が柔めく奥氣を以  
 の光をも、腹部に背き色を呈せしを以  
 此品を和り得るものなり。

たはふ

靴

井

町

新荷特

煙草製造販  
大日本政府專賣局ノ特許ヲ受  
入ルモノニ總磨ノ技術ヲ以テ高  
ノ製造者相宜ノ藥料ニ精進ス  
拘御購買ノ願上セ  
紙捲  
旭の煙 貳十本入  
文 貳十本入  
鳳 貳十本入  
鳳 貳十本入  
刻煙草

高級ナル日本葉煙草ヲ輸  
 價美ナル刺煙草紙巻煙草  
 販賣仕候ニ付多小ニ不  
 定價金六錢  
 定價金五錢  
 定價金四錢

六太郎は振り返つて、妻を見返つた、妻は  
「アツとなつて」  
「随分お壯健で、功名を」と  
と云ふ差して二人の目には千筋の絲を曳  
かぬく顔ぐとして、愛想を述べた  
時は彌生の中旬、桃花、李花のくさ  
楊柳の新緑、雲雀は中空に鳴となく其間  
は田舎の景色、今の離別の二人の心あは  
れとて妙愛を種子であらう  
参年、間諜隊教育員を兼ねた六太郎は  
旅の末ものは旅で、覺悟は爲て返つた、  
別離の情は又格別なもの、況んや雪雲の契  
を結んでからまだ覺えど經たない間に生  
の程も知れない別れをするの死もの、と  
六太郎は幾阿であらうか  
六太郎はアツとなつて  
「今更何れ程瘦いた處が返るに事だ、ま

●晴雨信報指示 本四月一日より臺灣  
一中央氣象台第一臨時觀測所にては南漢は  
左の如く信報號を指示する由  
風の如く三號號を以て之れと示す其の數號  
左の如し  
〔東北の風〕東の風〔赤〕の風〔東面  
の風〕  
一南風は方旗を以て之と示す其の數  
號左の如し  
〔白旗赤旗並に兩旗號  
一東風の昇降は長旗を以て之れと示す  
其の數號左の如し  
一西風は昇降は左の信報號を以て之と示す  
其の數號左の如し  
〔赤白旗並に兩旗號〕  
又西風の昇降は左の如し  
愛蘭の部 茂蘭の部  
〔解釋〕風雨の處を其他方位海の數號  
中なるを指示す  
赤 紅 綠  
風雨の部を商しきあり其地

せんをんでチヨイ、御遊びに是非左様なら  
 御車馬は兎角記者をばけつたなり  
 ●行旅病人死亡、富山縣川上郡富家村宇  
 布村六十(二)番郡千四百五十二(二)番地森川九市  
 布村六十(二)番は疾る廿九日、行旅病人として當公立病  
 院へ救療せりしが、昨日午前八時死亡せり  
 ●左様ならず、三浦博君子事實名非上知  
 は昨日限り足を滑つて、故里と流し左様なり  
 ●行旅遺失、富山縣之をばつた  
 落袋、依然出廻り、荷物にて預出して預出め  
 常用品には差支へなく先出て地相  
 納なしと全昨今の相場は換上と等値十  
 六圓二錢半、三圓四錢半、米一圓五  
 十六圓二錢より、十圓下等米四圓八錢位に保  
 持、無配付相續、各所或は出廻り荷少な  
 かり取中、多からず、荷主の買戻り困

爲に煩悶するものと茲に十有數月（二十五年）  
 一、風雨炎天に懸はれ萬難辛苦を蒙りて  
 勞瘁、足下に盡す。其下には常々衆を振  
 撥せんと欲す。悲願は、佛門菩提樂土の  
 だしし足下は余を以て亦久々煩悶せしむ  
 か（然り）余は挫折せず直立せよ一乘の赤  
 を以て一境の説法は亦爾と足下を倒さし  
 るは止まず強き力を以て余と足下を煩悶  
 しめ感嘆（一赤心の一青年）●電燈會  
 社並に隣國にて發かるる書を以て然かも  
 此の地方此の事情をいかし蓋山に我に就  
 命せしめて人衆の大保護と欲て余は  
 然らば内事は如何なり保護を致かすに實  
 に今、親と御姪を（御姪を）手南無女

小間物  
 雜貨  
 販賣  
 價  
 屋  
 九

旅館並御料理  
 精進牛乳麵飯會所豐後樓  
 本屋建築十八棟園內四季ノ北綯  
 大町外  
 停車場  
 達城館

唐津紙  
 半紙  
 ちり  
 紙

釜山北澤  
 水野巖商

水野四月二日ヨリ二日間西町妙喜寺  
 存藤明日岡君揮毫會  
 每日午前九時ヨリ 縦覧可也

愛國生命保險株

漆器類 シナカパン  
其他新古日用家具  
右卸小賣 廉價販賣  
御不用品 何をも買  
諸品競賣委託 應  
古物 雜貨 油 谷 商會  
電話 三五七番

附  
王突場

南洋和里  
Restaurant.  
目一町幸人堂  
虎倉小  
一五話電

廣 告

米實 諸君水 諸花諸盆  
我之苗願買此種間多少在不拘個買求救下  
度候此段廣告仕候也  
釜江琴定阿婆給武番地  
植木商 神高 續吉

日韓煙草商會

文に應じ特製可申上候

各 種 和

も軍人の妻じやないが、夫の門出  
吉じや、大に笑はれた様にいふ  
乃公の門出を祝つて呉れるのが軍人の妻  
ぢやないか、乃公の武士難しう家に居た  
たが、軍人だ今昔しの武士が出陣の饗宴に  
門下に寄る炊き込んでも向つたと云ふ話  
も、村長さんから聞きて居つた、乃公  
此處戰場へ行つたなら名譽の戦死を遂げ  
賜はつからお前も人から後指されないと  
良事を守つてお腹の赤兒が生れたなら乃  
公の機を起かせて呉れ各處には盡くぬき  
お供は暫し養ひつけしうの様に如くホッ  
と静養送つてあつたがツツと聲をへ  
り人目がまわすやうな女であつた  
軍醫政務の前代一尊皇前親王六太妃は

「空」其地方、赤の警報中、るを示  
●糸の物語り（一）  
記者は、東京からリとして長手通船水郷元  
二階に小糸を防んだのは眞實で、前ノ機  
工本玉糸等と向ふが誤解の最中であつ  
た金の事を考へて之をアトと勘弁せぬ  
といひながら、尤も生半端な勘定で茶代ねん  
記帳の間、合へて曰く、ホントに御恩か  
い事です。お母様じやうな市もありませ  
ぬ。此は國産で文藝はハライ洋貨屋好し私  
小供の時より習ひました、小供の時は  
イロはむなれた所でした。オホ、いゝ  
は物を養うで文藝は其角に資金を貯し蓄

紅梅  
波中なら示す  
白

五穀より川口物全二十万石位を喰へ居れば  
其國 專賣は日本より賣出せるべし。又銅など  
其國を以て價格に多少の變動を生ずることなし  
一休に獨氣なり就中臺灣鐵礦は近來大に轉入  
の費用を増し輸入増加の傾向あり相續は九  
圓一萬斤内外なり

燃料 炭炭其別に煤炭にて石炭も大体に於  
て相續然れども地相續は別は變りなし  
石油 倍々氣配惡し其價は多少の下落は希  
れざるべし

紡織材料 棉花棉糸は棉農より好む民なり  
綿織物に移る變りの時相續は迫るる爲め凡  
て不収なり

雜貨 在露貿易に供給を充分なる爲め必經  
自給貨品を得るを得ず不充なるを以て  
近來になり強氣配にて騰貴する氣配なり

●牛肉の鮮良なるは褐色にて肉の  
質も緻密に附りて初より肉味  
か細かくて 其色も惡し肉は色も惡  
く味も惡し 故てより肉が細く  
肉を食ふ肉は低かくて味より粗く粗く  
肉を食ふて消化不良なり●牛肉の良きは

られたのは、港濱の煙草屋ではなかつた南津の  
 某店の客でです。(壽司生)▲船客に出て賣  
 地に居る女子は何ん分り難い様でね。あ  
 出。一幸町○野さんは、幾分か機嫌風だし  
 幸町方方は町成順善さう様に神慮の體を  
 興盛中は、妻は案じらるゝのです。今年秋  
 頃、大町間(女史)  
 娘と云ふ町成順善と西町一人當平町に在  
 三人ある。名前にはしめわくが、番探郎史

洋學販賣並修繕

其他ラング

漢野商店

三井物産 釜山代理店 兼 金  
二百圓 拂渡す 候此段株主並ニ契約  
諸君ニ 廣告ス

議不可五一  
井上ヨシ

### 京仁線時刻改正

京仁線列車運轉時刻を左の通り  
改正し來る四月一日より實施可  
致候

北行 列車		南行 列車	
別府	八時	八時	八時
大津	八時十五分	八時十五分	八時十五分
大津	八時三十分	八時三十分	八時三十分
大津	八時四十分	八時四十分	八時四十分
大津	八時五十分	八時五十分	八時五十分
大津	九時	九時	九時
大津	九時十五分	九時十五分	九時十五分
大津	九時三十分	九時三十分	九時三十分
大津	九時四十分	九時四十分	九時四十分
大津	九時五十分	九時五十分	九時五十分
大津	十時	十時	十時
大津	十時十五分	十時十五分	十時十五分
大津	十時三十分	十時三十分	十時三十分
大津	十時四十分	十時四十分	十時四十分
大津	十時五十分	十時五十分	十時五十分
大津	十一時	十一時	十一時
大津	十一時十五分	十一時十五分	十一時十五分
大津	十一時三十分	十一時三十分	十一時三十分
大津	十一時四十分	十一時四十分	十一時四十分
大津	十一時五十分	十一時五十分	十一時五十分
大津	十二時	十二時	十二時

電至急  
御不用ノ方ハ御報  
知願生候  
石碯寶ノ旨ニシテ御披明申候間御用仰付被  
度候  
公安  
周庭漢  
津田光藏  
幸可丁目  
電話二五七番  
豫告  
當社今同轉經營業ヲ發展ニ俟ヒ廣ク印刷  
業務ヲ土官トシテ各公家ノ便益ヲ計  
其印刷ノ何ニモ問ハズ確實ト速捷トナシ  
大ニ顧客ニ利シク満足スルヲ以テ  
希ク地方ノ諸君當社印刷機ノ完備ヲ觀タル  
告仕候儀ナリ  
釜山北區三聖地  
日新印刷昌文社  
創立事務所

[illegible]

野原　御覧なす。源は男、削らん針りの  
 眞體を以て口邊なく時々敵の故く舞死  
 つ二つ脅すのみ、六太郎が出征して  
 己に一歳経つたお作は別れてから六ヶ  
 に玉の様な男の子と設けて名も矢に魚  
 て六郎と付けて源興に手紙を添へて六  
 の許に送つた、六太郎も今迄思はぬで  
 かつたが、今宵は一入に思ひ出されて  
 昔書いた源興の手紙を取出し、涙に  
 て意づけたが、彼はすすり笑を洩して、

夫れは面白う御座いました。清國の條は、  
浦さんなん云々銀行の旦那方の大のま  
で興行は僅か十五日でしたけれど四十日  
も持ちました御座れども一日百圓位つて  
いさゝと夫れは中々私共の身分では有  
でした。夫うもつて深く内連に行くつ  
てしたのが日露の戦が始まると云ふ間  
ハッ／＼風評になつて夫れは被れ地の郷  
土も保護せんやうでしたから歸りまし

手を引いてかゝるも何處も脂肪が皮の上  
 に露れか出て覆れも併し俗に油氣と云  
 じて脂肪の謂ては是れ也又何の處でも脂  
 質の先にある軟骨を指して押し見れば柔  
 軟は此骨が毛皮で柔かく従つて肉も柔  
 かな物なり又足も黄色なるかよし足の色  
 には不量なり黄足と云つて買ふべし▲魚  
 類は新鮮なる品に附き其色紫と光澤さか  
 り明珠も感ず上つて透明である▲皮  
 固着して容易に脱せるエサを赤くして惡

手販賣  
 價格低廉  
 品質精良  
 款式新穎  
 堅固耐久  
 經濟保美  
 高尚優美  
 冬山湖北濱町露下目  
 橫張商店  
 劍柔術教授  
 師範 山田信勝氏  
 彰武館  
 大森町

東京鐵道株式會社  
 明治三十八年正月  
 注意 急行列車 牛角角 富等 楳嶺  
 洞、繁榮津、停車場七  
 東京鐵道株式會社  
 明治三十八年正月

●就職と望む

韓語高等通譯

但シ學校教員若クハ銀行諸會社ニ雇

ハレタレ

右需要ノ方ハ、選開内ニ來談アリヤシ

(姓名ハト社ニ在リ)

朝鮮下等一手販賣  
及ビ廣告取次所

商聲社營業部

目品業  
 化粧品  
 美服  
 靴  
 乾物  
 會

手販賣  
 價格低廉  
 品質精良  
 款式新穎  
 堅固耐久  
 經濟保美  
 高尚優美  
 冬山湖北濱町露下目  
 橫張商店  
 劍柔術教授  
 師範 山田信勝氏  
 彰武館  
 大森町

東京鐵道株式會社  
 明治三十八年正月  
 注意 急行列車 牛角角 富等 楳嶺  
 洞、繁榮津、停車場七  
 東京鐵道株式會社  
 明治三十八年正月

●就職と望む

韓語高等通譯

但シ學校教員若クハ銀行諸會社ニ雇

ハレタレ

右需要ノ方ハ、選開内ニ來談アリヤシ

(姓名ハト社ニ在リ)

朝鮮下等一手販賣  
及ビ廣告取次所

商聲社營業部

目品業  
 化粧品  
 美服  
 靴  
 乾物  
 會

られたのは、港濱の煙草屋ではなかつた南津の  
 某店の客でです。(壽司生)▲船客に出て賣  
 地に居る女子は何ん分り難い様でね。あ  
 出。一幸町○野さんは、幾分か機女風だし  
 幸町方方は町成御座る様に神童の體を  
 興味中しは妻は案じらるゝのです。今年秋  
 頃まで、大町間(女史)  
 娘さん、町成と云ひ西町一人當平町に  
 三人あるゝ名前ばかりおはへ。善保氏史

洋傘販賣並ニ修繕

其他ラン

浅野商店

**釜山代理店**、**金**  
 二百圓 拂渡サレ候此段株主並ニ契約  
 將謝ヨリ廣告ス  
 議不可五一  
**井上ヨシ**

電至急  
御不用ノ方ハ御報  
知願生候  
石碯實ニ旨トシ御披申候間御用仰祈付被  
下度候  
公安  
周庭漢  
幸可丁目  
津田光藏  
電話二五七番  
豫告  
當社今同轉經爲ノ發展ニ俟ヒ廣々ト印刷  
業ヲトシ官トシ各公家ノ便益ヲ計  
其印刷ノ何ニモ問ハズ確實ト速捷トナシ  
大ニ顧客ニ利シク満足スルヲ以テ  
希クハ地方ノ諸君當社ニ光臨ヲ願フ  
告仕候儀ナリ  
日新印刷昌文社  
創立事務所  
釜山北區三聖地

[illegible]

爲に煩悶するものと茲に十有數月（前年）  
 一臘炎天に懸はれ萬難苦辛を嘗み  
 勞後 足下に盡すに難う下には常々氣を振  
 然てんと欲す 悲願は一時時苦難難なるもの  
 だし足下は余として亦久々煩悶せしむ  
 か（然り）余は挫折せず直立して一乘の赤  
 を以て一境の歎兵は亦却て足下を倒さし  
 ゐは止まず強き力を以て余と足下を併  
 死に臨むにや（亦心の一青年）●電燈會  
 社此の頃を以てかしき山に我に敵する  
 者なしと人衆の大衆を欺いて余は  
 然らば内事は如何なり保護を攻かに責  
 問に今も親と御姓を（御姓）●李南漢

小間物  
 雜貨  
 販賣  
 價  
 屋  
 九

旅館並御料理  
 精辦牛乳麵點和洋菜  
 日本屋建築十八棟園所豐饒後泉  
 大町馬場外  
 停車場  
 達城館

唐津紙  
 牛紙  
 半紙  
 ちり

釜山北澤通  
 水野巖商  
 水島島吉  
 藤明  
 藤明君  
 每日午前九時ヨ  
 午後五時ヨ  
 愛國生命保險株  
 會

漆器類 シナカパン  
其他新古日用家具  
右卸小賣 廉價販賣  
御不用品 何をも買  
諸品競賣委託 應  
古物 雜貨 町三丁目  
油谷商會  
電話二五七番

附  
王突場

南洋和里  
Restaurant.  
目一町幸人堂  
虎倉小  
一五話電

廣 告

米實 諸齒水 諸花諸盆  
我之苗願買此種間多少在不拘個買求救下  
度候此段廣告仕候也  
釜江琴定阿婆給武番地  
植木商 神高 續吉

日韓煙草商會

文に應じ特製可申上候

各 種 和

眞氣な手指を以て觸れても肉離くして  
 け居たり。斯く然るの疾ひは初動と云地の如  
 う居たり。超然然の疾ひは衆人に有る。於素  
 に出來たり。しを放せし氣は眼を閉む  
 覺明ならず。も眞に驚しニテ、其氣を  
 手指を觸れるは肉が柔めく氣氣を  
 の光をもり腹部に背き色を呈せしを以  
 此品を和り得るものなり。

たはふ

靴

井

町

新荷特

煙草製造販  
大日本政府專賣局ノ特許ヲ受  
入ルモノニ總磨ノ技術ヲ以テ高  
ノ製造者相當ノ利益ヲ得ルヲ旨  
拘御購買ノ願上セ  
旭の煙 紙巻 草  
文 明 貳十本 貳十本  
鳳 貳十本 貳十本  
鳳 貳十本 貳十本  
刻煙草

高級ナル日本葉煙草ヲ輸  
 價美ナル刺煙草紙巻煙草  
 販賣仕候ニ付多小ニ不  
 定價金六錢  
 定價金五錢  
 定價金四錢



[illegible]

旅舎

伊豫大洲  
金山港支店  
濱町支店  
小野 茂

新荷到務擴張

コルナン、シャツ類  
和歌山特産モンパシヤ

西なんりい町

十字屋本店

美濃焼、尾州焼、  
伊萬里焼、陶器類、

西なんりい町

十字屋第一號店

名古屋小間物、出雲焼、  
陶器、漆器、一閑張、

名山陳列館  
附屬賣品館

十字屋第二號店

襖立具類一切

西なんりい町

十字屋第三號店

右新荷到着候ニ付卸小賣共大割引販賣

齒科専門

幸町南濱通上町廣濟車  
和田野醫院ヨリ五軒目

共生醫院假治療所

京城泥鰌一號地

ニ滞在シテ契約起業民  
熟等汎ク法律事務ヲ取扱フ

東京辨護士皆川廣濟

東大慈本藥店

香寵葡萄  
酒

賣捌所  
草梁大慈支店  
東谷出張店  
春野店  
土井

販賣品目

鐵網並建築用  
諸金物類一切  
亞鉛引平浪板  
口一類各種  
韓人向諸金物

元山港第三號

角野元田支店

角野商店

大郎南門外  
角野大郎皮店